



Annual Report 2012-2013

IT連携フォーラムOACIS

Osaka Advanced Research Collaboration Forum
for Information Science & Technology

「IT 連携 フォーラム OACIS の 発展 に 向 け て」

中野 博隆

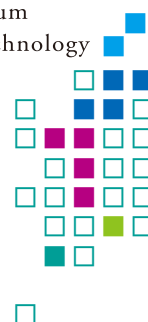
(大阪大学サイバーメディアセンター 教授 センター長)



2002年7月に発足したIT連携フォーラムOACISは活動暦11年を迎えます。微力ながら、この間に幹事として第16回(2009年度)から22回(2012年度)のシンポジウムの企画・運営に携わる機会を頂きました。産学連携を取り巻く環境が大きく変わる中で幹事を担当できたのは、関係する皆様のご尽力によるところが大きかったと感謝しております。その間を振り返り、今後の発展に向けて考察し挨拶に代えたいと思います。

産学連携の本質は産と学がそれぞれの強みを出し合い、新たな領域を切り開いていくことだと思います。経済成長が低迷する中で日本の強さを取り戻すには必須の活動です。産学連携における学の側には、先進技術の提案、人材育成、個々の企業を超えた情報活動、標準化のリードなど非常に多くの役割が期待されています。それらの期待に応えるべくOACISは、最新の技術情報をタイムリーに提供するシンポジウム、技術教育の一環としても役立つOACIS情報科学講座、個別の技術相談に対して答える個別技術座談会など各種のサービス機能の強化を図ってきました。また、イベントに対するアンケート結果を早期にオープンするよう、ホームページの更新にも努力しました。この結果、情報提供のサービスについては常に5段階評価で上位2段階を9割程度頂くなど、優れた評価を頂きました。勿論、改善のための意見を頂くことも多々あり、これは次の機会に活かすよう心がけました。人材育成をテーマとしてシンポジウムを開催していますが、毎回多くの参加者ありました。産が要望する人材像と学が供給する人材をどのように整合させていくかなどを含め多くの意見が寄せられ、今後もホットなテーマであり続けると思います。OACISは大阪をベースに活動しており、地域活性化の役割も自負しています。しかし、活動が地域に留まっていることの限界を感じることもありました。例えば、経済情勢に応じて企業の研究開発機能が東京に集約されるケースへの対応が課題となります。このため、新たな施策を検討する必要があると思います。例えば、他の産学活動との連携などにより活動の拡大を図りこのようなケースに対応するなど一つの案かも知れません。

私たちはOACISをベースに産学連携のあり方について多くのことを学んできました。元気のあるITを育てるために、今後ともこの経験を活かせるように願っています。関係者の密な協力ができるよう、宜しくご指導ご鞭撻お願い申し上げます。



「21世紀型のグローバル産学連携 モデル構築に向けたOACISへの期待」

パナソニック株式会社 R&D本部 オープンイノベーション推進室 理事・室長

平山 好邦



新たな経済政策「アベノミクス」効果で、円安・株高傾向が強まり、そしてTTPに始まる各国との自由貿易協定交渉の加速などで、これまで6重苦と言われてきた日本の製造業にも明るい兆しがでてきており、輸出企業の業績にも改善の傾向がでてきています。しかし、グローバルな競争環境を見たときに日本製造業空洞化の回避、復活にはまだまだ課題が山積していると言わざるを得ない状況です。

1970年代からの高品質・大量生産型で欧米にキャッチアップした日本型製造業は、過去20年東アジアを中心とするものづくり産業の台頭、超低価格化による製品のコモディティ化により急速に競争力を失っています。同時に欧米からの異業種による新たに土俵を変えた攻勢により、新規ビジネス創出でも厳しい競争環境に晒されています。また、個々の企業及び大学レベルでは非常に高い技術レベルを持つが、全体として新しいビジネスモデルを伴う価値創造に結びついていないという反省も真摯にするべきではないでしょうか。

日本の製造業を21世紀型の顧客価値創造型産業として復活させるためには、チェスブロウが「オープン・サービス・イノベーション」で記述しているように、これまでの製品中心から、体験価値のサービス中心へと転換を図り、自社の壁を越えてオープン化し社内外の知識を融合させる必要があります。そのための枠組みとして欧米ではコンソーシアムによる異分野融合型研究開発拠点が立ち上がっており、主要企業メンバーが多様な大学などの研究機関との連携で新たな競争力を生み出す活動が始まっています。また、異分野融合型研究開発を効率よく推進するためのマネジメント手法も更に進化してきています。

情報科学技術分野を中心に関西圏を中心とする日本経済の活性化を牽引することを目標に設立されたOACISが、これまでの産学連携での交流活動の枠組みを超えて、日本におけるコンソーシアムによる異分野融合型研究開発モデル推進のリーダーとなることを期待しています。IT連携フォーラムOACISが益々発展し、全員で21世紀型の新しいグローバル産学連携モデルを構築できるよう一緒に頑張っていきたいと思います。





第22回シンポジウム

～金融工学と情報通信技術～



開催日：平成24年7月6日(金)

会場：大阪大学中之島センター

参加対象：IT連携フォーラムOACIS会員及び入会希望会社・団体、
その他参加希望者

参加者数：70名

講演Ⅰ 「金融工学とは何か」

大阪大学 金融・保険教育研究センター

大西 匡光

講演Ⅱ 「金融リスク管理におけるIT技術の活用」

日本銀行 金融研究所

内田 善彦

講演Ⅲ 「金融市場分野におけるITトレンド」

みずほ情報総研 金融技術開発部

眞柄 智宏

講演Ⅳ 「ファイナンス研究と連動した Webサービスの可能性」

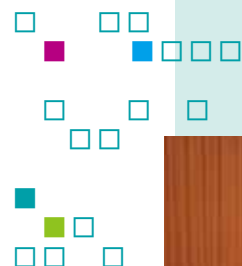
中央大学 大学院国際会計研究科

石島 博



第23回シンポジウム

～イメージング技術の新展開～



開催日：平成24年11月30日(金)

会場：千里阪急ホテル

参加対象：IT連携フォーラムOACIS会員及び入会希望会社・団体、
その他参加希望者

参加者数：73名

講演Ⅰ 「コンピューテーショナルフォトグラフィとは」

広島市立大学 大学院情報科学研究科 教授

日浦 慎作

講演Ⅱ 「画像認識ビジネス ～富士通が進めるビジョンソリューションのご紹介～」

株式会社富士通研究所 メディア処理システム研究所 主席研究員

塩原 守人

講演Ⅲ 「インテリジェントビジョンセンサによる 高速高精度計測と制御」

浜松ホトニクス株式会社 中央研究所

豊田 晴義

講演Ⅳ 「複眼計算イメージング」

大阪大学 大学院情報科学研究科 教授

谷田 純



* 特定の企業から受けたテーマに基づき、大学側のメンバーがその企業に出向き講演や打合せを行います。
2009年度から開始した活動で、深い議論ができることを期待しています。

第10回個別技術座談会*

「情報処理技術」

開催日：平成24年7月24日(火)

対応部門：OACIS幹事



最新の情報処理技術に関する情報交換を行いました。
それぞれの専門の立場から活発な意見交換がなされました。

第11回個別技術座談会

「Green ICT 技術」

開催日：平成24年8月2日(木)

対応部門：OACIS幹事



最新のGreen ICT技術に関する情報交換を行いました。
それぞれの専門の立場から活発な意見交換がなされました。

第12回個別技術座談会

「ネットワーク技術」

開催日：平成24年11月5日(月)

対応部門：OACIS幹事



最新のネットワーク技術に関する情報交換を行いました。
それぞれの専門の立場から活発な意見交換がなされました。

OACIS講座

「平成24年度OACIS講座(前期) 情報ネットワークの基本技術」

開催日：平成24年8月24日(金)・31日(金)・9月7日(金)

開催場所：大阪大学中之島センター7階 講義室702

主催：IT連携フォーラムOACIS
公益財団法人都市活力研究所

参加者数：36名



「情報ネットワークの基本技術」をテーマとして、
これから関連サービス・技術に携わる方や知識の
再整理を行いたい方などを対象に全6回の講義を
行いました。





OACIS講座

「平成24年度OACIS講座(後期) 情報ネットワーク、ソフトウェアの最新技術展望」

開催日：平成24年12月7日(金)・14日(金)・21日(金)
平成25年1月11日(金)・18日(金)

開催場所：大阪大学中之島センター4階 講義室406

主催：IT連携フォーラムOACIS
公益財団法人都市活力研究所

参加者数：38名



「情報ネットワーク、ソフトウェアの最新技術展望」をテーマとして、ネットワーク技術、ソフトウェア技術に携わる方々、この分野の知識を深めたい方、技術展望を得たい方などを対象に全10回の講義を行いました。

講演等の紹介

開催日	講演テーマ	講師等
4月4日	「Cloud computing, CloudCORE and multi-agent biosystems」	Prof. Ray Walshe
7月30日	「Emergent semantics: a socio-technical perspective」	Prof. Karl Aberer
8月6日	「An introduction to productivity and efficiency analysis with briefly introducing study in Taiwan」	游明敏 教授
9月5日	「Mode Transition Noise in MTCMOS Circuits」	Prof. Volkan Kursun
10月10日	「Optimal acquisition planning with demand uncertainty」 「TPS : A Japan's export that many want to have but few are able to take」	Prof. Guoqing Zhang Dr. Paulo Ghinato
11月29日	「Compressive Sampling and Multiaperture Cameras」	Prof. David J. Brady
11月30日	「From Circuits to Cancer」	Dr. Sani Nassif
12月6日	「Mobile Sensing」 「Deep Parsing and Semantic Processing of Text: Linking Meanings with Text」 「Machine learning for computational advertising: challenges and opportunities」	Dr. Feng Zhao Dr. Junichi Tsujii Dr. Tie-Yan Liu
1月29日	大阪大学未来戦略シンポジウム 「第三のウェア！ヒューマンウェアによるパラダイムシフトを今こそ」	主催：ヒューマンウェアイノベーション 博士課程プログラム



役員

(平成25年3月31日現在)

I アドバイザリーボードメンバー (任期：2年)

廣瀬 雄二郎	西日本電信電話株式会社 常務取締役 法人営業本部長
平山 好邦	パナソニック株式会社 R&D本部 オープンイノベーション推進室 理事・室長
田中 健一	三菱電機株式会社 役員理事 先端技術総合研究所 所長
灘本 正博	大阪商工会議所 専務理事
齋藤 行巨	一般社団法人関西経済同友会 常任幹事・事務局長
川邊 辰也	公益社団法人関西経済連合会 専務理事

II 監事 (任期：2年)

櫻井 豊	シスコシステムズ合同会社 政策・CSR推進部 政策担当シニアマネージャ
------	--

III OACISチェアマン

井上 克郎	大阪大学大学院情報科学研究科長 (平成23年8月26日情報科学研究科長就任に基づき就任)
-------	---



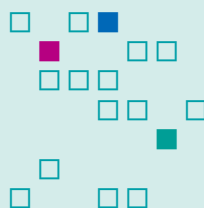
IV ステアリング・コミティーメンバー (任期：2年)

北原 寛千	関西電力株式会社 経営改革・IT本部 情報通信センター 副所長
三宅 知之	シャープ株式会社 研究開発本部 基盤技術研究所 要素技術研究室
大田 幸由	西日本電信電話株式会社 法人営業本部クラウドソリューション部 ネットワークソリューショングループ 担当部長
中 俊弥	パナソニック株式会社 R&D本部 オープンイノベーション推進室 産学連携推進グループ グループマネージャー
辻野 克彦	三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 開発戦略部 連携推進グループ グループマネージャ
大西 一彦	ダイキン工業株式会社 IT推進部長
大林 功	大阪商工会議所 経済産業部 産業・技術・水ビジネス振興担当 主任
岩崎 俊昭	一般社団法人日本能率協会 地域ユニット ユニット長
中野 博隆	大阪大学サイバーメディアセンター センター長
松田 秀雄	大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻 教授
藤原 融	大阪大学大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻 教授
東野 輝夫	大阪大学大学院情報科学研究科情報ネットワーク学専攻 教授
中前 幸治	大阪大学大学院情報科学研究科情報システム工学専攻 教授
井上 克郎	大阪大学大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 教授
谷田 純	大阪大学大学院情報科学研究科情報数理学専攻 教授

顧問

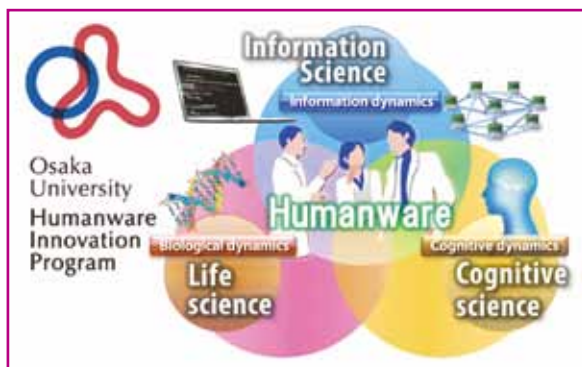
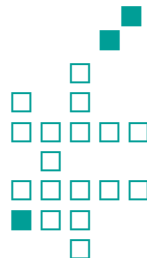
白川 功	宮原 秀夫	西尾 章治郎
株式会社シンセシス 取締役会長 大阪大学 名誉教授	独立行政法人情報通信研究機構 理事長 大阪大学 名誉教授	大阪大学大学院情報科学研究科 マルチメディア工学専攻 教授

参画企業 (50音順)



NTTアドバンステクノロジ株式会社	シャープ株式会社	パナソニック株式会社
NTTコミュニケーション科学基礎研究所	株式会社スーパーステーション	浜松ホトニクス株式会社
NTTコムウェア西日本株式会社	ダイキン工業株式会社	日立公共システムエンジニアリング株式会社
NTTスマートコネクト株式会社	株式会社ダイヘン	株式会社日立ソリューションズ
株式会社NTTファシリティーズ	株式会社大和コンピューター	古野電気株式会社
沖電気工業株式会社	西日本電信電話株式会社	三菱電機株式会社
関西電力株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社	三菱電機情報ネットワーク株式会社
シスコシステムズ合同会社	日本オラル株式会社	三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
株式会社島津製作所	日本電気株式会社	

平成25年3月31日現在



ヒューマンウェアイノベーション 博士課程プログラム始動

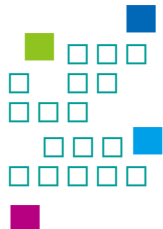
文部科学省博士課程教育リーディングプログラム【複合領域型(情報)】として、情報科学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科が実施する新しい博士課程プログラムがスタートしました。本プログラムは、3研究科ならびに産学官の密接な連携のもとで、情報、生命、認知の諸分野を融合するヒューマンウェアによってイノベーションの方向を転換し、柔軟・頑強で持続発展するシステムを構築できる博士人材を育成することを目標としています。平成25年1月にキックオフシンポジウムを開催し、多数のご参加を頂きました。

4月より第1期生を受け入れます。

● Webページ ● <http://www.humanware.osaka-u.ac.jp>

OACIS

Osaka Advanced Research
Collaboration Forum for
Information Science & Technology



■ アクセス

- 大阪モノレール
「万博記念公園駅」で彩都線に乗り換え、「阪大病院前駅」下車、徒歩約12分
- バス
阪急バス：千里中央発「阪大本部前行」または「茨木美穂ヶ丘行」
近鉄バス：阪急茨木市駅発「阪大本部前行」(JR 茨木駅経由)
いずれも、「阪大本部前」下車、徒歩約5分